

山口県立 総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特
集

リニアック棟稼働

より低侵襲な放射線治療をめざして



2021.11 Vol.46

- ① 副院長挨拶
- ② ③ ④ 特集 リニアック棟稼働
- ⑤ 看護部通信 患者と協働して取り組む「誤認防止」～医療安全推進室より～
- ⑥ 地域医療連携ニュース がん相談支援センターをご利用ください！ / アピアランスケアへの取り組み / 院長だより
- ⑦ インフォメーション 広報番組放送予定、令和3年度 県民公開講座の開催報告、編集後記
- 外来診察担当医表(別紙)



Leader's

副院長（感染症センター長）福迫俊弘

各医療機関の皆様方は、それぞれの立場で通常診療をしながらの長期に渡るコロナ対応にご苦労されていることだと思います。また、山口県立総合医療センターの職員方は、長い自粛生活に嫌気がさしているでしょうが、院内クラスターを絶対に避けるために今一度手綱をしっかりと締めていただきますようお願いします。ここで、コロナに対応していただいている皆様にお礼を申し上げます。直接患者さんに接している医療スタッフの方々へのお礼は別の機会にさせてください。事務部門、施設部門、県との折衝、感染地域の清掃、大量の感染性廃棄物の処理、休みない搬送業務、こちらの要求に迅速に対応していただける工事関係者、医療

機器の迅速な納入と搬送、センターへの配食などをしていただいている皆様。私たちはいつも感謝の気持ちでご活躍を見ています。どなたが欠けても診療はその日のうちに止まってしまいます。私たちは皆様方の努力のおかげで安心して医療に従事できており、なんとか心が折れないでいます。まだまだ終息の見えない状況ですがこれからもご協力をお願いします。私たち山口県立総合医療センターの職員一同はこれからも地域の安心、安全のために日々努力して参ります。足りない点などございましたら可能な限り善処いたしますので是非ご一報ください。

特集 | リニアック棟稼働

当院では、リニアック（放射線治療）棟を新設し、新設に合わせて放射線治療を行うX線照射装置や子宮頸がんの小線源治療を行うRALS（ラルス）、CT装置を刷新しました。



放射線治療室



子宮頸がんの治療を行うRALS（ラルス）



優しい間接照明の受付・待合スペース



新リニアック棟外観



治療計画・操作室

新しい放射線治療装置

今まで、皮膚のマーキングやレントゲン写真で放射線治療時の体のセッティングを行ってきましたが、新リニアック装置では、体表面光学式トラッキングシステムを使用し、被ばくすることなく体表面をスキャンし、セッティングできるようになりました。また、コーンビームCTで3次元的にセッティングができ、治療寝台が体のねじれなども対応できる6軸補正のものになったことにより、ターゲットへの正確な照射ができるようになりました。

さらに、体表面光学式トラッキングシステムを使用することで患者の体輪郭を常に監視することができるため、治療中も患者の動きを感じることができ、正確な照射を継続することができるようになりました。今まで、毎日のセッティングにはばらつきがあることや、治療中の患者の動きなどを考慮してある程度余裕をもった照射野の設定を行っていましたが、セッティングが正確になることにより、照射野を小さくすることができ、正常組織への無駄な照射を減らすことで、合併症を軽減できます。

ここが和むように

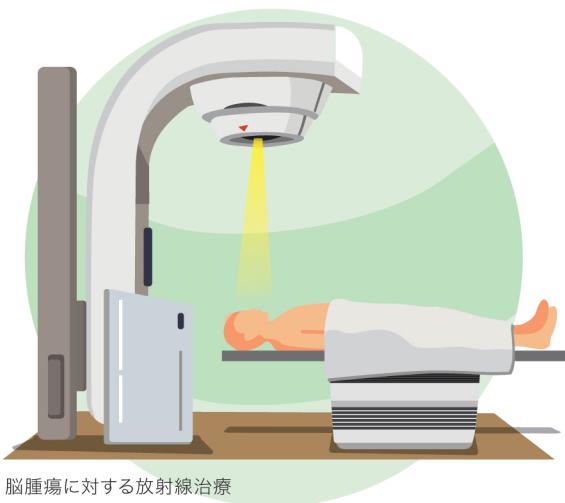
リニアック棟は、1階のCT検査室の奥に新設されました。今回の施設は、放射線治療専用の施設として他施設とは独立しており、プライバシーが保たれる環境となっています。また、専用の待合室は、『サロン』とまではいきませんが、白を基調とした統一された内装や間接照明の柔らかな灯りの中で、落ち着いた雰囲気で時間を過ごすことができるようになっています。

体表面光学式 トラッキングシステム

スリット状の可視光を投影し、その反射光を複数のカメラでとらえることで体表面の凹凸と距離を認識し、患者の体表面の三次元画像を取得できる装置



爽やかな配色の診察室



脳腫瘍に対する治療

当院には、7名の脳神経外科医師が在籍し、放射線科と連携して脳腫瘍治療に取組んでいます。

そのためにライナック・ラジオサージャリーチーム（脳神経外科医、放射線科医、診療放射線技師）を組織し、個々の症例に対し、治療計画を策定したうえで治療を実施しています。

熟練したチームメンバーが各々の症例に対し、連携を密に取って治療にあたることで、より正確な治療を実現できます。



RALS(ラルス)

Remote After Loading System(遠隔操作密封小線源治療)

子宮頸がんの治療を行うRALSに関しては、これまでレントゲン写真による2次元的な治療計画を行っていましたが、CT装置が同室になったことで、3次元的な治療計画を立てることが可能となりました。それに伴い、ターゲットの線量を細かく設定することができることから、より低侵襲な治療ができます。

また、正常組織にどの程度の線量が照射されているのかを確認することができることから、合併症の軽減にもつながります。



これからの放射線治療

今まで、“転移病巣のない原発性肺がんなどの呼吸変動の小さい転移性肺腫瘍”に対する定位放射線治療や、“脳腫瘍”に対する定位手術的照射を行ってきましたが、今後は、呼吸変動が大きい肺がんや肝がんに対する定位放射線治療が可能となります。

また、体内で放射線の強度を変えることができる強度変調放射線治療(IMRT)も、対応可能な環境であり、今後は対応が出来るように体制を整えていきたいと考えています。

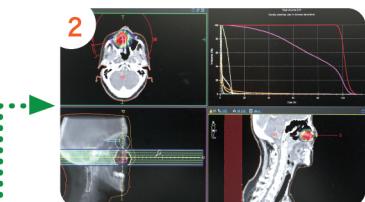
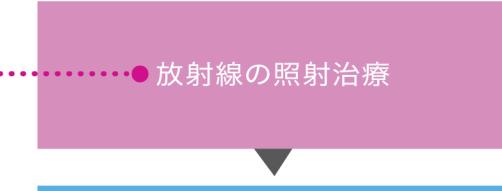
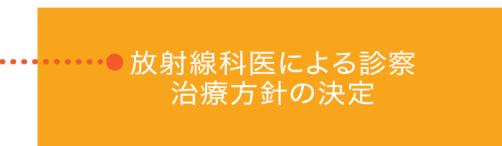
放射線治療の流れ



専門の担当医が診察し、様々な検査結果を参考に治療方針（身体のどの部位にどのくらい照射するのか）を決定します。



作成した治療計画に基づき、対象部位に放射線を照射します。



- 日本医学放射線学会
放射線治療専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構
がん治療認定医

ご挨拶 放射線科部長 中島 好晃

今回の設備刷新により、当院で可能となる放射線治療の領域は、今まで以上に幅広くなりました。また、当院では、外科、脳神経外科、整形外科、産婦人科、消化器内科、泌尿器科、形成外科、血液内科、皮膚科等、がん診療を行っている診療科が多く、地域がん診療連携拠点病院でもあり、様々な部位のがん治療に対して、放射線治療だけでなく、手術・化学療法も含めた複合的な治療に対応することができます。地域の先生方のニーズにお応えしてまいりますので、お困りの症例がございましたら、当院の地域医療連携室へご紹介ください。

看護部 通信



患者と協働して取り組む「誤認防止」～医療安全推進室より～

医療安全推進室 リスクマネジャー 米原美奈子

今年は、コロナ禍のオリンピック・パラリンピックの開催において「安心・安全」という言葉をよく聞いたのではないかでしょうか。選手の皆さんから大きな感動をもらうと同時に感染拡大への不安も混在する期間でした。

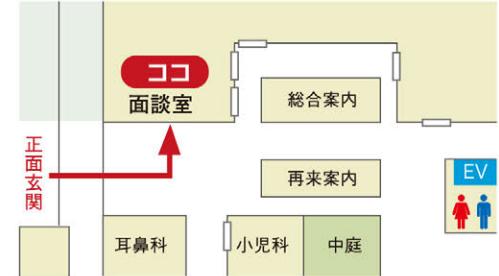
医療安全推進室では、患者さんや院内で働く職員の「安心・安全」のために日々活動しています。病院内で発生するエラーやケアレスミスについてレベルを分類・分析し、アクシデントにならないように取り組んでいます。その中でも誤認防止は重要な課題です。病院内には、同姓同名や類似名の患者さんもいらっしゃいます。入院中は、ネームバンドを装着してもらい、バーコード認証をしています。外来ではネームバンドがありませんので、診察室に入るとき、採血や検査の前に必ずお名前をフルネームで言っていただくことが重要です。同姓同名であれば生年月日等

でも確認させていただきます。職員も誤認防止のために「指差し呼称」を取り組んでいます。電車の駅員さんがホームでされているのを見かけたことがありませんか。「指差し呼称」することでミスが減少すると言われおり、昨年は各部署で「指差し呼称」の動画を作成し研修を行いました。誤認防止は患者さんのご協力が不可欠です。当院では、誤認防止について多くの患者さんに知ついたために、毎年11月25日を含む1週間を「医療安全推進週間」とし、医療安全に対する啓蒙活動を実施しています。昨年は各部門から募集した誤認防止の川柳の中から患者さんに気に入った川柳を投票していただきました。今年も川柳コンテストを計画していますので外来に来られた際は是非投票をお願いします。「安心・安全」な医療が提供できるように患者さんとともに職員全員で取り組んでまいります。



がん相談支援センターをご利用ください！

当院は国が指定した「地域がん診療連携拠点病院」であり、がんと診断された患者さんやご家族の不安な気持ちや治療に伴う悩みに対して寄り添い、一緒に考えるために「がん相談支援センター」を設置しています。がんの治療が始まると医療費の心配や学校・仕事のことなど、治療と生活とを切り離せない多くの悩みが多く出てきます。「がん相談支援センター」では、さまざまな不安や悩みに対して、多職種と連携して対応しています。



がん相談支援センターは、正面玄関を入り、すぐ左手にあります。お気軽にお立ち寄りください。

アピアランスケアへの取り組み

治療を進めることにより、脱毛や皮膚トラブルが生じることがあります。がん相談支援センターでは、脱毛に対するケアとしてタオル帽子やウィッグの紹介を行っています。また、治療によって生じる外見の変化(アピアランス)に対してウィッグ等を購入された場合、山口県や防府市などの自治体から助成金を受け取ることができる制度があります。申請方法や窓口などについてはがん相談支援センターへご相談ください。皮膚のトラブルなどは、がん専門の看護師と連携しております。遠慮なくお申し出下さい。



院長
だより

秋も深まり、紅葉が美しい季節になってきました。COVID-19との闘いは今なお続いているが、日本国新しい船出が国民に幸福をもたらしてくれることを祈るばかりです。今年度の県民公開講座はハイブリッド方式を採ることで予定どおりに終えることができました。聴衆の皆さんと対面で直にお話ができたのは大変良かったと感じています。

令和3年も残すところ後2か月足らずになりました。笑顔で大晦日を迎えるよう努めましょう。



武藤 正彦



やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)



放送日時	放送内容	出演
11月 6日(土) 18:55~19:00	チームで取り組む糖尿病診療	内分泌内科 竹田 孔明 医師
11月 10日(水) 16:00頃~		
12月 4日(土) 18:55~19:00	手術支援ロボットを導入した 人工膝関節置換術	整形外科 吉田 紘二 医師
12月 8日(水) 16:00頃~		

令和3年度 県民公開講座の開催報告

開催日時	テーマ	出演	参加人数	web 閲覧回数
7月 10日(土) 14:00~15:00	心不全と肺高血圧症	循環器内科 池田 安宏 医師	30	629
8月 7日(土) 14:00~15:00	泌尿器(膀胱)がんと泌尿器疾患 (レーザー治療を中心に)	泌尿器科 山本 光孝 医師 是永 佳仁 医師	28	327
9月 25日(土) 14:00~15:00	認知症	脳神経内科 福迫 俊弘 医師	16	249
10月 23日(土) 14:00~15:00	がん放射線治療	放射線科 中島 好晃 医師	16	117

※web閲覧回数は10月29日時点を掲載しています。

今年度の県民公開講座は従来の会場参加型とweb参加型のハイブリッド式で開催しました。

来年度の開催日程と参加方法については、今後のセンターだよりでお知らせします。

受講料無料

【会場参加型】とは

事前申込必要 (定員30名)



【web参加型】とは

事前申込は不要。当院ホームページに設置する専用タブをクリックし、参加できます。



編集後記



うすぐ2歳になる娘が、アンパンマンの虜になっています。私自身も子供の頃に家や保育園でアンパンマンのアニメを観たり、人形で遊ぶことに夢中になっていたことを母親からよく聞かされていました。広く、長く愛されているアンパンマンのように、当院も地域の皆さんに愛される病院であり続けるため、私も広報担当として、有益な情報を積極的に発信していきたいと思います。(企画調整室S.H.)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymgp.jp/>